

2-2-4項 FP (代替サブプレッションチェンバースプレイ) (図-4参照)

操 作 順 序	操 作 内 容	確 認 事 項	操 作 場 所	確 認
	RHR系が使用不能で格納容器圧力が640kPaを超えたとき、MUW系による代替サブプレッションチェンバースプレイが不可能な場合FP系からの代替サブプレッションチェンバースプレイを行う。			
1	M/D消火ポンプ又はディーゼル駆動消火ポンプを起動する。		9-6	
2	RHR(B)系のサブプレッションチェンバースプレイラインに通水が可能であることを確認する。 TEST RETURN VALVE (MO-10-39B) 全開 TORUS SPRAY VALVE (MO-10-38B) 全開 INJECTION VALVE (MO-10-25B, 27B)全開 * (RPV注水中は弁全開 (RPV健全時)) RHR REACTOR HEAD SPRAY VALVE (MO-10-32, 33) 全閉 * (RPV注水中は調整開中 (RPV破損時)) CONTAINMENT SPRAY VALVE (MO-10-20) 全開	Ⓡ点灯 Ⓡ点灯 Ⓢ点灯 (Ⓡ点灯) Ⓢ点灯 (Ⓡ点灯, Ⓢ点灯) Ⓢ点灯	9-3 " " " " "	
3	FP系からMUW系へ通水するため以下の弁を全開にする。 FP-MUW連絡第一弁 (MO-18-254) 全開 FP-MUW連絡第二弁 (MO-18-255) 全開	Ⓡ点灯, Ⓢ消灯 "	AM. PNL "	
4	RPV注入ライン流量調整弁(MO-10-111)を開にして注入流量がD/W代替注水流量計(FI-57-14)にて120m ³ /hr以上になるように調整する。 既にRPV・ペDESTAL注水している場合も120m ³ /hrに調整するが、流量が増加しない場合はペDESTAL注水, RPV注水中止して、120m ³ /hrの流量にてサブプレッションチェンバースプレイを行う。 (120m ³ /hrが確保できない場合は、その時点の最高流量でスプレイを継続する。)	Ⓡ点灯 FI-57-14	AM. PNL	
5	外部水源による代替ドライウェルスプレイを実施している間は、AM設備制御盤S/C水位にて格納容器の水位を監視する。	LI-16-174	AM. PNL	
6	格納容器圧力が392kPaを下まわったら、RPV注入ライン流量調節弁(MO-10-111)を全閉し、以降は間欠的に代替サブプレッションチェンバースプレイを実施する。 サブプレッションチェンバースプレイ開始 640kPa サブプレッションチェンバースプレイ停止 392kPa	Ⓢ消灯 D/W圧力記録計 FR/PRC-16-105 PI-172	AM. PNL 925 AM. PNL	
7	外部水源による代替サブプレッションチェンバースプレイを実施中は外部水源注水総量を監視しサブプレッションチェンバースプレイラインの水没防止のため、注水総量2300m ³ に到達したら代替サブプレッションチェンバースプレイを停止する。			

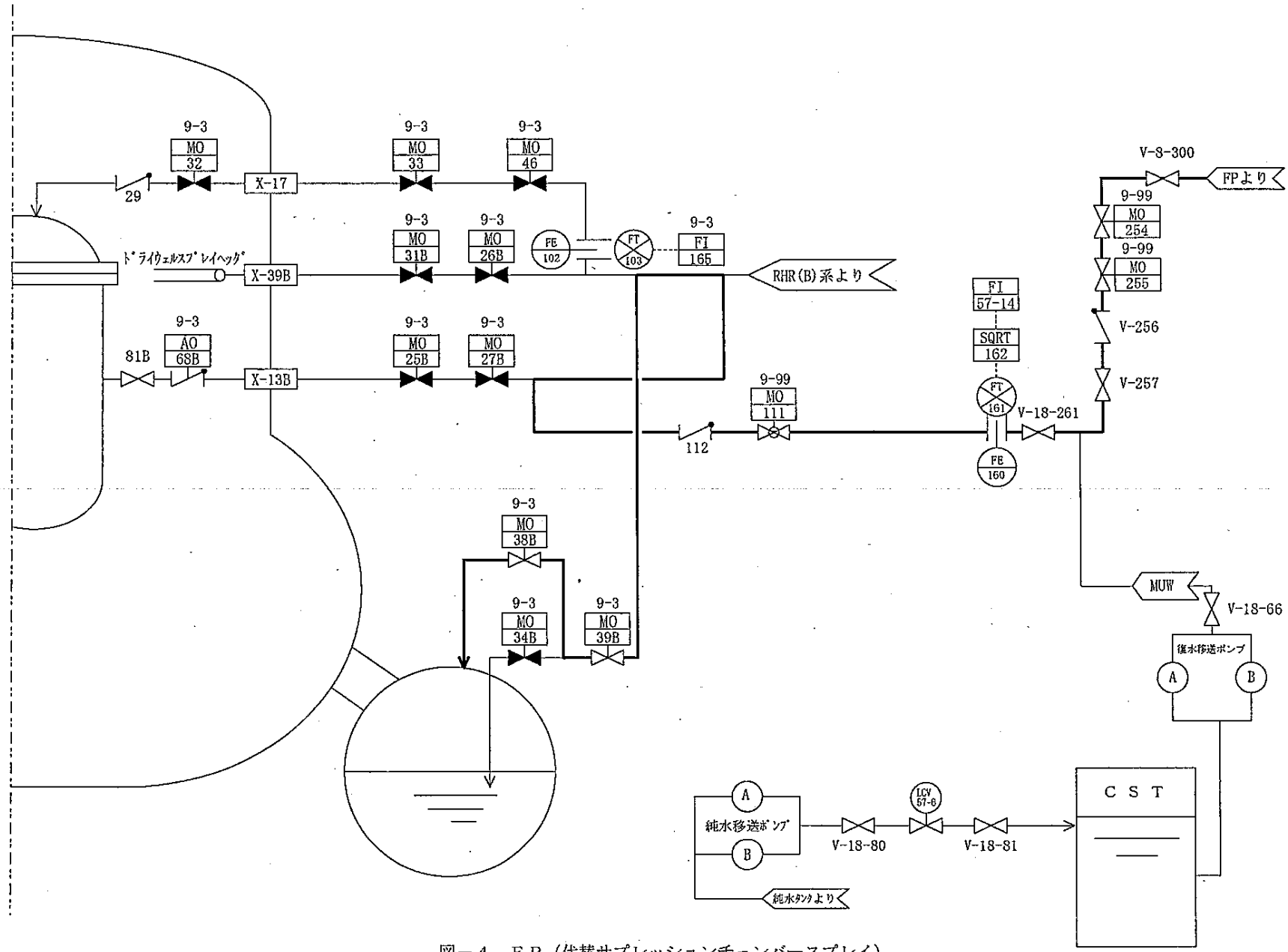


図-4 FP (代替サプレッションチェンバースプレイ)

2-2-12